

アジア地域食料安全保障強化支援事業（拡充）

1 趣旨

- (1) 東アジア米備蓄構想については、東アジア地域の食料安全保障の強化と貧困緩和を図るため、アセアン+3（日本、中国、韓国）農林大臣会合の下で、16年度から18年度までを期間としてパイロット・プロジェクトが実施されている。
- (2) 東アジア地域は、世界のコメの生産・消費の約6割を占めており、この地域の食料安全保障の強化のためには、各国の協力・貢献によって地域としての米備蓄システムを設立することが重要であり、平成15年12月の日・アセアン特別首脳会議で採択された「日アセアン行動計画」においても、その早期設立が盛り込まれたところである。
- (3) このため、プロジェクトの調整国として、東アジア米備蓄システムの設立に積極的に参加・貢献していくこととし、引き続きトラスト・ファンドの拠出により、現物備蓄等のコメ備蓄システムの調査研究、事務局運営等の支援を行う。
- (4) 18年度においては、本プロジェクトで16年度に策定したコメの備蓄・放出に係るガイドラインに基づく試験事業及びその検証を行うため、実際にこのガイドラインに基づいて備蓄米を緊急放出することなどにより、
災害が起こってから被災者にコメが届くまでの全体の時間や問題点を確認すること、
備蓄開始から被災者にコメが配布されるまでのコメの状態を確認すること、
などを通じて効果的な支援に結びつけるためのデータの収集、ノウハウを蓄積するとともに、適正な管理方法の確立を目指す。
さらに、備蓄米の緊急放出の効果を示すことにより、アセアン各国の本プロジェクトに対する積極的な参加を促す。

2 東アジア緊急米備蓄パイロット・プロジェクトの概要

- (1) 目的
東アジア地域の食料安全保障の強化と貧困撲滅を目的とした米備蓄システムの形成
- (2) 内容
各国の自主的取組みの下、次の米備蓄システムの検証を実施（実施期間3年間）
イヤマーク備蓄による対応（各国が通常保有する在庫の一部充当を約束すること）
実際に造成した現物備蓄による対応（緊急時の被災者対応、貧困緩和事業）

3 事業内容

- (1) 運営委員会の開催、コメ備蓄システムに係る調査研究、備蓄放出に係る試験事業の実施への支援
- (2) 事務局運営への支援

4 拠出先 アセアン事務局

5 実施期間 平成16年度～18年度

6 平成18年度概算決定額 85,250(40,489)千円
うち拡充分(1) 44,761千円

〔 担当課：大臣官房国際部国際協力課
総合食料局食料企画課 〕